《平成30年度　熊救協役員名簿》

施設名	定員	施設長名	所　在　地	開設年月日	電話番号
友愛会銀杏寮	60	本山　雅徳	〒860-0047　熊本市西区春日5丁目17-36	S35．12．1	096-352-6602
しらがね寮	50	蓑田　輝幸	〒868-0424　球磨郡あさぎり町上西835-2	S43．4．1	0966-45-6668
天　草　園	70	三宅栄一郎	〒863-1212　天草市河浦町宮野河内3662-2	S43．12．10	0969-78-0053
菊　池　園	50	福嶌　秀信	〒861-1201　菊池市泗水町吉富17-1	S47．10．11	0968-38-2956
野坂の浦荘	50	迫本　文雄	〒869-5305　葦北郡芦北町大字田浦町358-2	S55．5．1	0966-87-2277
真　和　館	50	藤本　和彦	〒861-2401　阿蘇郡西原村大字鳥子3072	H18．4．28	096-279-1121
千　草　寮	50	片山　辰巳	〒869-4701　八代市千丁町太牟田2618	H21．4．1	0965-46-0032

役　職　員　名　簿

役職名	職　名	氏　名	施設名
会　長	施設長	藤本　和彦	真和館
副会長	施設長	本山　雅徳	友愛会銀杏寮
監　事	施設長	片山　辰巳	千草寮
事務局	事務員	平畑　佳郎	真和館

事業検討委員会

役職名	職　名	氏　名	施設名
委員長	施設長	福嶌　秀信	菊池園
副委員長	生活支援員	松中　直人	天草園
委　員	介護職員	沼田　彩乃	友愛会銀杏寮
委　員	介護支援員	石橋　弘士	千草寮
委　員	生活支援員	山口　義博	野坂の浦荘
委　員	指導員	小田　敏弘	しらがね寮
委　員	介助員	森田　良治	真和館

研修委員会

役職名	職　名	氏　名	施設名
委員長	施設長	蓑田　輝幸	しらがね寮
副委員長	生活支援員	蒔本　健作	天草園
委　員	介護職員	中村きよみ	友愛会銀杏寮
委　員	介護支援員	大塚真理子	菊池園
委　員	介護支援員	坂田　哲人	千草寮
委　員	生活支援員	元村瀬里奈	野坂の浦荘
委　員	生活支援員	藤本美和子	真和館

調査・研究委員会

役職名	職　名	氏　名	施設名
委員長	副施設長	三宅　浩徳	天草園
副委員長	指導員	森野　貴惠	友愛会銀杏寮
委　員	生活支援員	野嶋　理美	菊池園
委　員	生活支援員	坂口浩司郎	千草寮
委　員	生活支援員	鶴川　君子	野坂の浦荘
委　員	介護職員	愛甲　和孝	しらがね寮
委　員	生活支援員	高谷　厚	真和館

新任職員紹介

千草寮
- 介護支援員　村島　清子
- 介護支援員　鮫島　信江

野坂の浦荘
- 看　護　師　鬼塚　晃子
- 生活支援員　上田　佑季

菊池園
- 介護支援員　三笠　広宣
- 介護支援員　大塚　実
- 看　護　師　藤木　智子
- 看　護　師　森　健一郎

真和館
- 生活支援員　草野由紀子
- 指　導　員　福井　大輝
- 指　導　員　坂本　豪
- 調　理　員　松岡　志乃
- 生活支援員　松岡　潤哉

銀杏寮
- 看　護　師　緒方　宏美

天草園
- 介護支援員　黒田　美咲
- 介護支援員　田中　和美
- 調　理　員　森田　孝子
- 調　理　員　松本　加奈

熊救協　2018　6月号(No.32)　　編集後記

梅雨明けが待ち遠しい今日この頃ですが、皆さま、いかがお過ごしでしょうか？

熊本地震(平成28年4月16日:(本震))が発生して早2年が経過しました。真和館も随所に被災の跡を残しましたが、皆さまからのご支援とご協力を賜り、現在は無事復旧しております。これからも感謝の気持ちを忘れずに、初心に返って支援に取り組んで参りたいと思います。

梅雨が明けますと本格的な暑さが到来します。熱中症や脱水症には十分気を付けてお過ごしください。

≪熊救協調研委員:高谷厚(真和館)≫

編集　：　熊本県救護施設協議会　調査・研究委員会
事務局　：　〒861-2401　熊本県阿蘇郡西原村大字鳥子3072番地　真和館　TEL　(096)-279-1121　(096)-279-1122
発行　：　熊本県救護施設協議会

熊本県救護施設協議会　　2018年　6月号(No.32)

熊　救　協

http://kumakyukyo.sakura.ne.jp

ごあいさつ

救護施設菊池園　副施設長　清水　和雄

菊池園は、2017年3月に新施設が竣工し、1年が経過しました。このことに関連し今後の課題として、瑕疵担保期間内における建物の不具合個所のチェック、福祉サービス第三者評価の受審、地域交流室の活用等が挙げられます。

また、一方において地域社会で制度の狭間にいる生活困窮者に対し、公益的な取り組みの一環として、生活支援のための相談事業並びに予備の居室を利用した無料又は低額な料金での宿所提供への取り組みの準備を進めています。

ところで、人口減少のなか経営的には、他法他施設の優先及び中間施設としての位置付けもあり入所者数の維持が困難になることに加え、将来的に現業職員の確保の困難さもあり施設によっては廃業、多角化、合併のいずれかを選択せざるをえない可能性があります。

更に、都市部を中心に要保護者の選択肢として宿所提供施設も増加してきており、今後地方にも波及し救護施設の経営が、一層厳しくなっていくものと思われます。

最近、国の財政の逼迫化により施設事務費の各種加算条件は、厳格的運用(原則として身障者は、1・2級手帳保有者また知的・精神障害者は、手帳保有者に限る)の方向にありますが救護施設としては、将来の人口減少に伴う入所者減による収入減に備え、加算条件(最低入所者人員、障害者の範囲、障害者比率等)について緩和を要請していく必要があります。また、高齢者の人口は、微減と推定されているので高齢の要保護者の受け入れについては、加算条件とは別枠で入所基準の見直しを検討してもらいたいものです。

最後に公益的な取組みについては、小規模法人のみでの対応は難しいので、共助を前提に協働(市町村、社会福祉協議会、民生委員児童委員、地域包括支援センター、他の救護施設等)によるバックアップ体制のもと成果を上げていく必要があると思いますので、各関係機関におかれましては今後ともよろしくご支援をお願い申し上げます。

～　居宅訓練事業取り組み　　菊池園　～

菊池園では平成28年1月から男性1名、女性1名が居宅訓練事業に取り組みました。男性は菊池園から約4km離れた2DKのアパートにて、女性は600m離れた1DKの一軒家にて開始し、訓練先の2カ所ともバス停まで徒歩2～3分の場所にあり、通院などに便利な場所で、バス停の近くにスーパー、コンビニがあり買物はそこで済ませています。

訓練当初は、訓練先に泊まり朝食のみ調理し、昼食と夕食は施設にて食事する形をとっていましたが、次第に朝食と夕食を調理、朝・昼・夕3食とも調理とステップアップしていきました。さらに退所後の生活を考慮し、切り詰めた食費の中、献立を考え、自分達で食材を購入し調理することが出来るようになり、生活全般においてそれぞれの個性が顕著に現れるようになり、それから1年10ヵ月の訓練期間を経て2名とも菊池園を退所しアパート生活を開始することになりました。

また、支援にあたっては専任職員の他、生活支援員、担当介護支援員、看護師、栄養士が入り、定期的な会議の他、必要に応じて協議を行ってきました。

なお、現在は新たに別の男性1名、女性1名が訓練に取り組んでいるところですが、今のところ、朝食と夕食を調理している段階であり、日中は菊池園へ自転車で来て活動に参加したり、精神科デイケアへ通院したりしています。現在訓練中の2名も訓練を無事終了し、アパート生活を送れるよう職員一同支援に励んでいるところです。

～事業検討委員会～

【平成29年度事業報告】
■救護施設交流会
開催日 ☞ 平成29年 5月26日
会 場 ☞ パークドーム熊本
内 容 ☞ スポーツ交流(グランドゴルフ・ニチレクボール・輪投げ)利用者・職員・県市福祉事務所・ボランティアの総勢約200名の参加を受け、盛大に開催出来た。
■事業検討委員会
第1回 ☞ 平成29年 5月19日(場所:えがお健康スタジアム)・・・交流会の最終打合せ
第2回 ☞ 平成29年 7月14日(場所:菊池園会議室)・・・交流会の反省・次年度以降の交流会について
第3回 ☞ 平成30年 1月26日(場所:野坂の浦荘会議室)・・・平成30年度交流会について・平成30年度事業計画及び予算策定

【平成30年度事業計画】
■救護施設交流会
開催日 ☞ 平成30年5月17日(場所:えがお健康スタジアム)
会 場 ☞ パークドーム熊本
内 容 ☞ スポーツ交流(ｸﾞﾗﾝﾄﾞｺﾞﾙﾌ・ﾆﾁﾚｸﾎﾞｰﾙ・輪投げ・玉入れ)・・・今大会より、玉入れ競技を追加。
■事業検討委員会
第1回 ☞ 平成30年 5月 7日(場所:えがお健康スタジアム)・・・交流会の最終打合せ
第2回 ☞ 平成30年 6月22日(場所:銀杏寮会議室)・・・交流会の反省・次年度以降の交流会について
第3回 ☞ 平成31年 1月25日(場所:ウィング松橋会議室)・・・平成31年度交流会について・平成31年度事業計画及び予算策定

～研修委員会～

【平成29年度事業報告】
■研修委員会
第1回 : 平成29年 4月20日(木) しらがね寮　　第2回 : 平成29年 7月20日(木) 千草寮
第3回 : 平成30年 1月18日(金) 菊池園
■職員研修会
第1回職員研修会　平成29年6月15日(木)　場所 : 救護施設菊池園
内容 : 職種別グループ討議 ・ 菊池園から施設の概要説明及び施設見学
第2回職員研修会(熊救協・九救協合同研修会)　平成29年10月10日(火)　場所 : くまもと森都心プラザ
講話1 演題 「怒りの感情と上手に付き合う方法」
講師 オフィスDear 代表 今村 ゆか様

講話2 演題 「アルコール依存症者に対する現場でのクラフトの実践について」
講師 国立病院機構肥前精神医療センター 心理療法士 中川 康子様

【平成30年度事業計画】
■研修委員会
第1回 : 平成30年 4月19日(木) 天草園　　第2回 : 平成30年 7月19日(木) 野坂の浦荘
第3回 : 平成31年 1月17日(木) 銀杏寮

■職員研修会
第1回職員研修会　平成30年 6月14日(木)　場所 : 救護施設菊池園
内容 : 職種別グループ討議・講演
講演:「最近の災害医療と平成28年熊本震災」
講師 社会福祉法人紫翠会 理事 川口 英敏氏
第2回職員研修会(熊救協・九救協合同研修会)　平成30年10月29日(月)　場所 : くまもと森都心プラザ
テーマ「こころの病気(精神障害)に関する研修会」～当事者が語るアルコール依存症と統合失調症～
講演・アドバイザー予定
統合失調症ピアカウンセラー 森 実恵氏
鹿児島国際大学 岡田 洋一氏
真和館アルコール依存症ピアカウンセラー 高尾 純子氏

～調査・研究委員会～

【平成29年度事業報告】
■調査研究委員会
第1回 : 平成29年 4月20日(木) 千草寮　　第2回 : 平成29年10月27日(金) 菊池園
第3回 : 平成30年 2月 9日(金) 銀杏寮
■熊救協広報誌関係
熊救協第30号(6月発行) 送付先⇒137カ所358部
熊救協第31号(1月発行) 送付先⇒137カ所358部
■熊救協ホームページ関係
平成29年 4月:熊救協基本方針・施設長及び各種委員会名簿の更新
平成29年 6月:県下7施設の施設概要の更新
平成29年 8月:熊救協広報誌30号7掲載
平成29年11月:県下7施設「利用者統計一覧」
平成30年 1月:熊救協広報誌31号掲載
■利用者支援Q&A(困りごと)調査関係
各施設における支援上の困りごとを①盗癖、②認知症、③金銭管理、④ADLの維持・向上に限定し、更に要点を①盗癖(意識的に行われる盗癖、無意識に行われる盗癖(盗癖・認知症))、②認知症(無断外出(徘徊)、物忘れ、暴言・拒否)、③金銭管理(貸し借り、管理能力、累積金)、④ADL(意欲の維持・向上)に絞り込み、再調査を行うことにいたしました。

【平成30年度事業計画】
■調査研究委員会
第1回 : 平成30年 4月24日(火) しらがね寮　　第2回 : 平成30年10月26日(金) 真和館
第3回 : 平成31年 2月 8日(金) 銀杏寮
■熊救協広報誌関係
熊救協32号(6月発行⇒137カ所・358部)　熊救協33号(1月発行⇒137カ所・358部)
■熊救協ホームページ関係
熊救協基本方針・熊救協役員名簿・各施設利用者状況等の更新及び広報誌バックナンバー(32号・33号)並びに利用者実態調査結果表(利用者各種統計一覧)の更新
■調査研究「利用者支援Q&A(困りごと)」の取りまとめ
利用者支援Q&A(困りごと)から利用者支援問題ケース対応事例集へと変更し、今年度の中で取りまとめを行い、熊救協ホームページ会員専用サイトへの掲載

平成30年度 救護施設交流会 ～パークドーム熊本～

去る5月17日(木)パークドーム熊本にて、県下7施設が一堂に会する「熊本県救護施設スポーツ交流会」が開催されました。この大会は施設利用者の社会適応性を養い施設相互の親睦を深めることを目的として開催される毎年恒例の一大イベントです。
本年も救護施設から利用者・職員、来賓として熊本県・市の福祉事務所、グラウンドグルフ協会の皆様方合せて総勢213名の方々に参加していただき盛大に開催することが出来ました。これもひとえにご来場いただいた皆様のご支援ご協力の賜物です。改めてお礼申し上げます。尚、熊本県グラウンドゴルフ協会の皆さま方には、準備、進行、記録まで、お世話頂き誠にありがとうございました深く感謝いたしております。
今回のスポーツ交流会から新たに玉入れ競技が加わり、これまでのグラウンドゴルフ、ニチレクボール、輪投げと併せて4競技とバラエティ豊かになりました。玉入れの参加者は、紅・白に分かれ昔懐かしい競技において童心に返ったように2メートル50センチの高さのかごへ玉(各30個)を早く入れようとゲームに励んでいました。
グラウンドゴルフにおいては、12組62名の参加があり、日頃の練習成果を存分に発揮しながらお互い優勝を目指して競い合いました。 その結果、優勝を手にしたのは菊池園のN・Y氏で、スコアー34打、ホールインワンが2回と断トツの好成績であり、福祉事務所の方々も参加され利用者との親睦が深まっていたようです。
また、ニチレクボール(室内ペタンク)は、3人のチームワークが大切な競技で、利用者18チームによるトーナメント方式で白熱した試合展開が繰り広げられました結果、3回もの熱戦を勝ち抜いた天草園Aチームが見事優勝を収めました。

さらに輪投げは、会場の中心で和やかな雰囲気で行われ施設から利用者43名、県健康福祉部2名と施設長の参加があり、各施設対抗団体戦で1人5輪の10回を投球した平均点で順位が決まりました。
その結果、見事優勝を勝ち取ったのは天草園の7名のメンバーでした。皆さんの日々の練習成果が実りました。
今回、関係各位の皆様方のご協力により怪我や事故等なく交流会を無事に終えることが出来ました。この救護施設スポーツ交流会は、地域との絆を高め相互理解を促進する上で大いに意義があるものと考えられますので、今後とも変わらぬご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。